

## 令和4年度 第1回名護市総合教育会議 議事録

日 時	令和5年3月6日（月） 16:00～17:00
場 所	庁議室
出席者	渡具知武豊市長、岸本敏孝教育長、大城千代子委員長職務代行者、大城享委員、宮城恵次委員、松田由絵委員
事務局	岸本尚志教育次長、玉城利和（教）総務課長、日高毅一（教）総務課総務係主事
関係部局	鎌田広大企画部長、仲井間憲彦地域力推進課長 大城正章学校教育課課長、神山英輝学校教育課主幹、 他 担当課職員7名
関係者 又は 学識経験者	なし

発言者	内容
事務局	<p>本日は、お集まり頂きありがとうございます。</p> <p>地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第1項の規定により、名護市総合教育会議を開催いたします。</p> <p>それでは、次第に沿い、始めに渡具知市長、ご挨拶をお願いします。</p>
渡具知武豊市長	<p>みなさん。こんにちは。ご挨拶を申し上げます。</p> <p>皆様には、平素より、本市の教育行政にご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。</p> <p>さて、令和2年から我々の生活に多大な影響を与えてきた新型コロナウイルス感染症ですが、ここ最近では新規感染者数の減少や市内イベントも再開されるなど、終息の兆しが見えております。</p> <p>それまでの間、教育長や教育委員の皆様をはじめとする学校関係者の皆様には大変なご苦労があったものとお察し申し上げます。</p> <p>そのような厳しい状況の中であって、皆様には本市の未来を担う子供たちの健やかな成長のためにご尽力いただいていることにつきまして、重ねて、お礼を申し上げます。</p> <p>改めて教育現場に目を向けますと、多様化、複雑化する社会情勢におきまして、かねてより、教育現場では様々な課題を抱えているなか、近年の新型コロナウイルス感染症の影響によりまして、GIGAスクール構想の取組みが加速し、オンライン授業などが実施されております。そこから新たな課題も見えてくるなど、時代に応じた新たな課題も加わっている状況にあります。</p> <p>それら多種多様な課題を解決するために、学校や家庭に加え地域や行政との連携をより密接に行っていくことが、今後ますます重要になってまいります。</p> <p>本日の会議では、教育現場における課題解決のため、GIGAスクー</p>

	<p>ル構想及びコミュニティ・スクール（C・S）に関連した内容につきまして、ご協議いただき、関係機関が連携して課題を共有することとなっております。</p> <p>また、本会議は市長部局と教育委員会という対等な執行機関による協議調整の場でございます。本会議において調整された事項につきましては、各機関において尊重される必要がございます。</p> <p>今回の総合教育会議をとおしまして、本市の教育に係る方向性を互いに確認、共有し、これからも安全安心な教育環境が提供できるように取り組んでまいりたいと思っておりますので、どうか皆様にはそれぞれの立場において忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。</p> <p>結びに、本市の教育行政のますますの発展と本市の子どもたちの健やかな成長を願うとともに、本日ご参集の皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げ私からの挨拶といたします。よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>渡具知市長ありがとうございました。</p> <p>それでは引き続き協議の進行を渡具知市長お願いいたします。</p>
渡具知武豊市長	<p>それでは、会議次第の2、協議事項に移ります。協議事項の1つ目は「学校ネットワークの SINET 接続事業について」です。担当部署より説明を求めます。</p>
学校教育課 学校支援係主査	<p>説明させていただきます。</p> <p>SINET と呼ばれるのは、大学研究機関などが使用している高速のネット回線のことです。国によって整備されているものです。今、文部科学省では、それを小中学校に接続できるよう検討が進められています。</p> <p>SINET のような高速の通信につなげられるということは、とても安定したネットワークが構築できるので、教育委員会でも教育環境の向上に有効であると考えているところです。</p> <p>その中で、沖縄県北部地域の宜野座サーバーファームが SINET の接続拠点として選定されました。名護市は北部広域のイントラを利用した SINET への接続に有利な環境となっておりますので、それを最大限に活用した方がいいと考えております。</p> <p>ただ、そのイントラを経由して SINET に接続するには、イントラを管轄する市長部局の情報政策課との連携が非常に密接になってきます。学校の現場、施設などに関しては教育委員会でいろいろと検討をしていますが、そこから SINET に接続するために情報政策課と、接続を前提とした事業の共有を行っていきたくと考えております。</p> <p>その理由につきまして、市内学校では令和2年度に GIGA スクールで回線を整備し、実際、令和3年度から使用をスタートしました。</p> <p>しかし、もともと想定していた構成によると、通信の渋滞が起こる不具合があり、なかなかネットにつながらないという状況が出てしまいました。そこをどうにか解消しようということで、令和3年度の途中からではありますが、ローカルブレイクアウトという方式をとって、直接民間の回線を使って一時的に通信の確保をするという短期的</p>

	<p>な対処をしました。</p> <p>ただ、今後、児童生徒のタブレット活用がさらに進むということと、デジタル教科書の導入が小学校では令和6年度から、中学校では令和7年度から始まるということがあります。ICTを使ったテストの実施というのもあります。</p> <p>また、最近行われている交流事業の増加ということがあり、通信量が増加していくのではないかと懸念があります。そうするとネットワークが不安定になります。使う人が多くなると通信の渋滞が発生するということです。その渋滞を解消するためには、道路に例えると、1車線より2車線、2車線より3車と車線数を増やさなければ渋滞してしまうということです。その車線の問題をSINETというものを使って解消していけばということです。ネットワークが不安定になりますと、授業中に通信が繋がらなかつたり、接続中に止まったりと、いろんなことが出てきますので、そういったことを解消できるように、SINETへの接続を前提とした事業展開を情報政策課と連携して行っていきたいと考えているところでございます。簡単ではございますが説明は以上です。</p>
渡具知武豊市長	はい、それでは学校教育課からの説明及び提案がございました。ご意見等があれば挙手にてお願いします。
大城千代子委員長職務代行者	はい。よろしいでしょうか。
渡具知武豊市長	大城委員どうぞ。
大城千代子委員長職務代行者	このSINETにつなぐことができれば、今ある地域差、これも解消されるし、もちろん通信のスピードについてもよくなるし、途中で切れるとかっていうことは、100%ないか90%くらいないかっていうことになるわけですか。
学校教育課学校支援係主査	通信ですので、絶対ということとはなかなか難しいのですが、ただ、今の環境よりはよくなるということと、通信の学校間の差というのはなくなると思います。
大城千代子委員長職務代行者	最初にGIGAスクールが始まったときの時期の差があるということと、地域差とかもあると思いますが、子どもたちの平等に教育を受ける権利というものを考えると、ぜひこれは早々に整備されるといいなと個人的に思います。
渡具知武豊市長	はい、ありがとうございます。他にもいらっしゃいませんか。教育長から何かございませんか。
岸本敏孝教育長	はい。今回のSINET接続事業について、資料に理由も書かれていますが、今後デジタル教科書の普及が児童生徒用へ向け進んでいきますと、通信にかなりの影響があります。さらに、全国学力テストなども、CBT(Computer Based Testing)ということで、コンピュータを使ってテストもしていくということもあり、かなり通信量が上がっていくということがあります。それから大学や研究機関からの出前授

	<p>業なども考えられます。</p> <p>ちょうど今朝、高専（工業高等専門学校）の校長先生が訪ねてこられました。高専がSTEM教育を進める上で、この地区の核となる教育機関として文科省から指定され、そのために教育機関と連携をしてSTEM教育を進めていきたいということでした。STEM教育というのは、科学、サイエンスの頭文字のS、技術のテクノロジーのT、工学エンジニアのE、そして数学のマスマティックのMから作られた言葉です。そういう理工系の人材を早い段階から育てるような動きもあり、教育機関と連携していきたいということで、4月の校長研修会に具体的な説明をしてもらうという話をしました。そういう点を踏まえて、子どもたちを育成する環境を作っていく、大学や研究機関との交流も可能になっていく学術情報ネットワークへの連携を進めていければと考えています。今、高専については、コミュニティ・スクールの一環で、区内の小中学校でプログラミングの授業をしてもらうなど、地域人材、企業人材、社会の中で子供たちを育てるという観点の中で関わってもらっています。高専としては、研究や子供たちの経験のために、それを市内全域に広げていきたいというような思いもあるようです。そういうようなこともあり、今後この流れが進んでいけば、学校の通信環境、イントラ環境の整備が必要になり、今後、情報政策課と連携して進めていかなければならないと思っていますので、よろしくをお願いします。</p>
渡具知武豊市長	はい、他にございませんか。
宮城恵次委員	はい。いいですか。
渡具知武豊市長	宮城委員どうぞ。
宮城恵次委員	先ほどの説明の中で、イントラ担当の情報政策課との共通認識とあるのですが、例えば、どのような点についてですか。情報の保護とか、そういうことなのでしょう。具体的にどういった共通認識が必要になっているのかな。
学校教育課学校支援係主査	今、学校については教育委員会の方でネットワークとか整備とかやっておりますけれども、SINETには市長部局管轄の名護イントラネットを通して、北部広域のネットワーク、インターネットへつながります。名護イントラネットというところに関しては、情報政策課の管理しているところになります。ですので、学校だけがそのSINETに接続するための構成をしても接続は不可能で、名護イントラネットの部分でもその対応をしなければいけません。そこでSINETに接続するというのを一緒に検討、取り組んでもらえないかということのお願いです。
渡具知武豊市長	はい、よろしいですか。他にございますか。よろしいですね。それでは、担当部署からのご提案の通り、SINET接続事業については情報政策課も協力して取り組んでいくということで、調整がついたということでよろしいですね。よろしくお願ひいたします。

	<p>続きまして、協議事項の2につきまして、コミュニティ・スクール（C・S）等の取組について、でございます。担当部署から説明をお願いいたします。</p>
<p>学校教育課 学校支援係長</p>	<p>よろしく申し上げます。説明はスライド資料をご覧くださいながら説明させていただきます。コミュニティ・スクールについて、改めて内容を説明させていただきます。保護者、地域住民の皆さんが学校に参加する仕組みとして、学校運営協議会を設置した学校をコミュニティ・スクールといいます。名護市では今年度、全ての小中学校にコミュニティ・スクールを導入し終えましたので、このタイミングで総合教育会議を開催させていただいております。</p> <p>コミュニティ・スクールは国の政策として、平成16年から始まっております。平成16年5月に国の創生会議の提言で、消滅可能性都市というものが見られ、2040年には今の自治体の半数が消滅可能性都市になるのではないかという提言がされております。そういう流れもありあまして、地域と自治体創生本部の設置、また平成27年には教育再生実行会議の提言の中で、教育がエンジンとなって地方創生を行っていくということが強く打ち出されております。その具体的な取組として、全ての学校をコミュニティ・スクール化していこうという提案がされております。それを踏まえ、平成29年3月から、これまで推奨だったコミュニティ・スクール化が、努力義務という形になって、令和4年はそれを加速させていこうという重点期間となっております。今、制度の話をしていただきましたけれども、名護市においても、現時点で、人口が減少していくという流れになっております。また、児童生徒の数も30年前に比べると、かなり減少してきている流れがございます。コミュニティ・スクールは、そういった地方の様々な要因や流れを汲んで、名護市においては、平成28年から取組がスタートし、平成30年度から市内各学校において、段階的に導入してきました。そして、今年度、全ての学校でコミュニティ・スクール導入が完了したところでございます。コミュニティ・スクールの取組が始まって、先ほど教育長の方からもございましたが、まず事例としては、久辺小中学校、久辺小学校の方に高専の学生、先生の方に来ていただいて、プログラミング授業を行ったり、久辺中学校の方には、地元企業さんがプログラミングの授業をするなど、地域特性のある取組も出てきております。東江中学校さんの方では、Googleサイトという簡易ホームページのようなものを立ち上げて、東江地区の事業所、食店、小売業など、生徒が関心あるものを調べて、それぞれの魅力を伝えていく、関心のあることを、プログラムを教えてくれる人たちといろいろ調べて、魅力を伝えていこうとやっているところです。羽地地区のところでは、地域巡り、羽地の産業の学習をしながら、羽地地区の中学生が地域を盛り上げるために、こういった取組をした方がいいかというのを、羽地未来プランという形でそれぞれ考えてデータを集めたりなどしています。資料で、挙げているのは、そのうちの一つです。地域を回って、一周達成したら、ポイントがもらえて、そのポイントで最終</p>

	<p>的には地域で買い物ができるとい、中学生が考えた提案や、ひるぎ学園では、小中一貫校の特性を生かして、小学校1年生から中学校3年生まで、地域を知る学習というのが多くございます。9年生、中学校3年生のときに、地域をどういうふう発信していこうかというところで、ヒルギダマシというヒルギによく似た植物が繁茂していることに注目し、これを伐採しながら、それをまた商品化していこうという取組で、環境にも配慮した取組なども行われております。いろいろな取組、地域企業の連携もございます。地域企業、羽地支所、青少協のご協力いただいて、羽地ダム方面の利活用だったり地域の特産である羽地米の植え付けだったり、そういったのにも関わっています。総務課の防災担当の方が学校で防災に関する授業もしていただきました。名護小学校の社会科の授業では、役所の仕事をのぞいてみようという授業があり、そこで役所の5つの部署の方の業務についてのお話をしていただきました。</p> <p>市議会の仕組みについての授業もございます。議会見学を行ったり、平和学習で博物館や文化課の方が、講師を行っております。他の自治体では、SDGsの話、環境の話、税金の話、選挙の話、まちづくりの話というようなことを、その担当の部署の方が講師をして授業展開なども行っているという事例もございます。</p> <p>今年度の地域とともにある学校づくり推進フォーラムというもので文部科学省から示された資料では、コミュニティ・スクールの導入により、子どもを中心にして、地域全体を一つにまとめる、次世代の地域づくり推進を行っております。地域とともにある学校づくりは、教育委員会が中心となって進めていくものと思いますが、それと一緒に、学校を核とした地域づくりというのも示されており、これに関しては市長部局と一緒に取組む必要があります。行政の多分野での取組を通じて、地域を一つにし、地方創生に貢献していこうというのが、文部科学省からも示されているところでございます。これについては、教育委員会を主体に進めていきたいと考えていますが、委員会のみでは対応できない部分もありますので具体的に市長部局の職員派遣などを今後連携して進めていただきたく、総合教育会議で提案させていただきました。説明は以上です。</p>
<p>渡具知武豊市長</p>	<p>ただいまコミュニティ・スクールとまちづくりにつきまして、担当課より説明をいただきました。これにつきまして、ご意見あればお願いいたします。</p>
<p>岸本敏孝教育長</p>	<p>現在では、だいぶコミュニティ・スクールが意識化されてきて、地域人材の活用だったり、地域の方々が学校に出入りする機会がだいぶ増えてきたように感じます。その意味で、学校が開かれたものになりつつあると思います。地域に支えられているというふうにも実感もしています。一方で、コミュニティ・スクールの総会のときのアンケートを見ますと、地域の人にとって学校へ行くことには何のメリットがあるのでしょうか？といった意見もあります。行政、地域の方々双方にメリットが感じられる関係が築けるようなコミュニティ・スクール</p>

	<p>にしていきたいと思います。資料のサブタイトルに、小中学校への職員派遣・各課連携についてと書かれていますが、その視点を大事にしながら、地域づくりと学校づくりを両立するように取組を進めていきたいと考えています。昨年度は、市長部局に小中学校への出前授業で職員派遣に協力いただいて、とても良い評価を受けています。今後さらに市長部局との連携を強く持ち、学校づくり、まちづくり、地域づくりに努めていければと思っていますので、よろしくお願いします。</p>
渡具知武豊市長	他にございませんか。
大城千代子委員長職務代行者	よろしいでしょうか。
渡具知武豊市長	大城委員どうぞ。
大城千代子委員長職務代行者	<p>前回、私が教育委員会の時に防災について質問した時に、役所の方できちんと資料を作って、学校に配布しています、学校とそういうやり取りができていますという返事をいただいていたのですが、コミュニティ・スクールで防災の話をした時に、子どもたちが逃げる予定になっているところに、雨風しのげる建物もなければ電源もない水道もないという状態と伺いました。緑風学園の場合は0歳児からいます。子どもたちが一昼夜無事にそこで過ごすというのは難しいと思います。この問題を教育委員会だけで解決することはできないとされていて、非常食の貯蔵庫なり、一夜を過ごすのに必要なものが、どれだけ整備されているのか、本当に子どもたちの命を守れるような拠点になっているかという点について、教育委員会、市長部局まだ横の連携が弱く対処できていない問題があると感じています。</p> <p>私はコミュニティ・スクールで先生方からそういう話を伺い、役所の部局間、横の連携が希薄であるため学校側で抱え込んでいる問題もあると感じています。学校、先生としては、対応しがたい細かな問題について、役所のどの部局へ相談したらよいかかわからず、対処が遅れている状態になっていると思います。</p> <p>今日のような、教育委員会と市長局が同じ場で、そういう問題点について話し合う場があれば、コミュニティ・スクールの運営協議会で、先生方が抱えている問題に対して地域住民で拾い上げ役所へつなげることもしやすくなります。こういう問題の対処の流れがうまくいけば、相談の機会も増えますし、これが地域づくり、まちづくりにつながるいい流れになるのではないかなと思います。</p>
渡具知武豊市長	はい、ありがとうございます。今、お話があった各学校における災害の際の避難マニュアルはフローが作られていると思いますが、実際的な検証などはどうなっていますか。
大城正章学校教育課課長	各学校は、学校保健安全法に基づいて危機管理マニュアルを作成するというのが、今、法的に義務付けられています。それは市内の全学

	<p>校で作成済みで、毎年、点検見直しを行っています。ただ、学校としては、地域の状況から災害時の非難を想定し、例えば津波であれば避難できる高いところはどこか、より短時間で移動できるところはどこかという視点でマニュアル作成をやっていると思います。実際、先ほどあったように、非難のあとについてはどうするのかという点については精査していく必要があると思います。その点は区におかれている防災機関などと連携などを含めて考えていくこととなると思います。</p>
渡具知武豊市長	<p>今、懸念事項がありましたように、避難先でどう過ごしていくのかという点は教育委員会と市長部局連携して対処していただきたいです。ほかにございますか。</p>
宮城恵次委員	<p>よろしいでしょうか。</p>
渡具知武豊市長	<p>宮城委員どうぞ。</p>
宮城恵次委員	<p>コミュニティ・スクールを名護市内全校でスタートできたということは、大変素晴らしい一歩だと思っています。コミュニティ・スクールということで学校には、学校と地域をつなぐコーディネーターがいると思います。学校には総合的な学習の時間とか、教科、道徳福祉活動、それから社会活動などの時間がありコミュニティ・スクールは、そういうところで活用することが可能かなと思います。総合的な学習時間だけで年間 70 時間ありますよね。</p> <p>どんな組織でもそうだと思うのですが、新しい体制をはじめていくにあたり、単発的に行って、うまくいっても継続的にうまくいくとは限らないです。今のままでは、学校を核としたまちづくりという最終的なところまでいって落ち着くのは難しいのではないかと思います。コミュニティ・スクールに係る 70 時間プラスアルファの時間をどうやって計画するかが大事になると思っています。学校ではコーディネーターがいて、大体学校と相談しながらある程度の計画をコーディネートしていくと思うのですが、市としてはどういうふうに考えているのでしょうか。市が学校に係っていくというなら、学校のコーディネーターとすり合わせをしながら、年間 70 時間プラスアルファの時間の中、当初で計画を立てておかないと、その都度限りの実施になってしまって、本当のまちづくりとしての基本的な活性につながっていくのは難しいと思います。計画、時間の割り当てなど、これから詰めて考えていくこともあると思いますが、いかがでしょう。</p>
渡具知武豊市長	<p>はい、ありがとうございます。 担当課よりご意見ありますか。</p>
学校教育課学校支援係長	<p>地域によって地域特性であったり、コーディネーターの方の強みであったり弱みというか、様々なものがありますので、コーディネーターの学習会をもちながら、共同し活動できるような体制作りを進めているところです。また、単発ではなく見通しを持ったという点について、教育計画で重要な話は、学校運営協議会がそういった熟議をする</p>



	場になっております。学校運営協議会が地域課題であったり、学校課題について、話し合い、どのように教育課程に落とし込んでいくか議論と取組を進めているところはございますが、1年目から話し合い、すぐに教育課程に落とし込んでいくは難しいところもございまして、時間をかけながら、しっかり見通しを持った体制作りというのを今、取り組んでいるところでございます。
大城正章学校 教育課課長	次年度の施策の一つとして、コミュニティ・スクールは、スタートしたばかりの学校と、3年以上過ぎていて発展期に向かっている学校の二つに分けて、それぞれに応じた支援をしていきます。これについては1月の校長会でも伝えていきます。そして、校長先生たちには、名護市の教育振興計画の基本理念の分も、しっかり学校の教育のビジョンに反映させてほしいということをお願いしています。その辺が整備されていくと、先ほどのあった総合の70時間の活用というところも、効果的に活用して、コミュニティ・スクールと連携した形の教育ができるものと考えております。
宮城恵次委員	緑風学園と屋我地ひるぎ学園は、年間を通した総合的な学習の時間について学校全体のテーマにというのを作って、研究されて作られているという資料があったと思います。そういう形で各学校できると、年間すごくコーディネートしやすいと思います。他の学校でもこのようにできたらいいと思います。
大城正章学校 教育課課長	今、宮城委員のおっしゃるように緑風学園と屋我地ひるぎ学園の良い点を取り入れていこうという取組があります。前回のコミュニティ・スクールの総会の時にも取組事例として挙げられていました。6月以降にある市の校長研究会で、名護市として事例紹介し良い事例を広めていこうと考えているところです。
渡具知武豊市 長	他にございますか。
大城千代子委 員長職務代行 者	今日の会議は教育委員会と市長部局が今後一緒になってコミュニティ・スクールに取り組んでいっていただけるという認識でいいわけですか。今までだと、コミュニティ・スクールは、教育委員会のみが担当というイメージしかなかったのですが、自分たちが視察に行った山口市では、市を挙げて、コミュニティ・スクールに力を注いでいる印象を強く受けました。それはなぜかといったら、やはり、まちづくりというのが入っているの、市も強く後押しをしてくれて、コミュニティ・スクールが早く浸透した。そういった背景があったと伺いました。研修の時、市長部局が一緒になってコミュニティ・スクールに取り組んでくれたら、より良くなると思っていたのですが、今後は名護市もそういう方向に行くという認識でいいわけですか。
渡具知武豊市 長	担当課お願いします。
学校教育課学 校支援係長	各課の業務がございまして、その業務がコミュニティ・スクールで活かせる部分は協力し合い取り組んでいけたらと考えています。また、教育委員会以外の部署への学校からのニーズもあると思います。

	<p>そのようなときには連携していきたいと思っています。地域コーディネーターの方からや、学校教育コーディネーターの方から相談があれば、つないでいきたいと考えています。実際に相談をもとに学校教育課と市長部局が連携し対応にあたった事例もございます。今日のこの会議では、教育委員会、市長部局各課が連携を高めていくということを確認させていただけたら、よりコミュニティ・スクールを充実させていけるのではないかと思います。</p>
大城正章 学校教育課課長	<p>学校の協議会が充実して、そこで熟議が進んでいけばいろいろな要望、相談も出てくると思います。ただ今課題としては、まだ3年目以下の学校だとか、熟議が進んでいない学校が多いことです。今のままではなかなか意見が出てこないという部分があると思います。協議会で熟議ができるようになっていけば、広がっていく可能性は十分あると思います。</p>
渡具知武豊 市長	<p>はい。他にございませんか。</p>
大城享 委員	<p>はい。</p>
渡具知武豊 市長	<p>大城委員どうぞ。</p>
大城享 委員	<p>各学校コミュニティ・スクールで訪問した際、すごい熱意もって取り組まれていると感じて、いいスタートだったと感じております。今後は、横のつながりを生かしてより良くしてほしいと思っています。スタートしたばかりの学校と5年経過した学校とでは経験に差があって、市内で経験のある学校のノウハウなどを、他の学校が取り入れ、生かせる場を作してほしいです。</p> <p>あと、これが先生方の大きな負担になっていないかという点を懸念しています。学校や地域まかせになっていないか。その点、実際のところをご存じの範囲で教えてほしいです。新聞等でも取り上げられていますが教員が足りないということもあり、少し気になりました。</p>
学校教育課 学校支援係長	<p>学校間の連携につきまして、先ほど述べたコミュニティ・スクール推進の総会もそうですし、事務局ミーティングというのもやっています。教頭先生中心に各学校の状況を共有する情報交換の機会を年2回持っています。また、活動をさらに広い範囲で共有するところでは、協働活動の調査報告書というのも求めており、各学校の分を作成し、全学校へデータとしてお渡ししていますので、各学校の取組が確認できるような体制になっております。</p> <p>今年度から新しく始めた取組として、文科学省が出しているコミュニティ・スクールのアンケートがございます。文科学省が作成した設問に比べると、今の状況が可視化できるという、C・Sポートフォリオというものが出されていますので、今年度から新しく取り組んでいるところでございます。その中では子どもたちへの効果や、先生方への効果というところがございます。今年度、データとして見えたものがございます。導入5年目の期間が長いところと、導入してばかりの今年度始まったところで比較すると、わかりやすい数字として、先生方</p>

	<p>の授業力の向上という点で地域資源を活用すると子どもたちの興味関心が高まるということが、データ結果から見えています。</p>
<p>渡具知武豊市長</p>	<p>はい。ありがとうございます。 他になにかございませんか。</p> <p>それでは、コミュニティ・スクールにつきましても、担当部門からご提案ありましたとおり、市長部局関係各課協力して進めていただくということでもよろしくお願ひします。</p> <p>事務局ほかになにかございますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>ありません。</p>
<p>渡具知武豊市長</p>	<p>それでは以上をもちまして会を終了といたします。ありがとうございました。</p>
<p>一同</p>	<p>ありがとうございました。</p>